

平成30年度 秋桜高等学校 学校評価

I 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。
 - (1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。
 - (2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。

- 2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。
 - (1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。
 - (2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。
 - (3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。
 - (4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。
 - (5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。
 - (6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。
 - (7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- 3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。
 - (1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。
 - (2) 職員会議等の機会のみならず、日常における情報交換を行い、相談できる機会を持つ。
 - (3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成31年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。 ・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。 ・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。 ・前年度の課題となっていた「特別活動」に関しては、それぞれの特別活動の実施前に教員全員でどんな特別活動の時間になればいいのかということを一層丁寧に議論し、事後の総括もこれまで以上に丁寧に取り組むことで当年度の結果は前年度に比べ肯定的評価が増えた。引き続き次年度においても取り組むこととする。 	<p>学校評価委員会実施日：令和元年6月14日（金）（構成委員7名）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（7）人・適切でない（0）人・無回答（0）人 2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（7）人・適切でない（0）人・無回答（0）人 3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（7）人・適切でない（0）人・無回答（0）人 4 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか 適切である（7）人・適切でない（0）人・無回答（0）人 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度と今年度の結果を比較、分析した結果、学校評価委員全員が「適切である」と評価する。教職員に対するアンケート結果からもわかるように、教職員全員で生徒や保護者一人ひとりに向き合い大切にしていこうという姿勢をこれからもずっと貫いてほしい。 ・進路相談について、できるだけ早い時期に生徒にも保護者にも進路を意識し考え始められるような働きかけを行ってほしい。

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりしっかりと話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	<p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p>	<p>・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が87.7%（前年度実績89.6%）。 ・学校評価（生徒）③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が90.8%（前年度実績88.2%）。 ・学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が90.7%（前年度実績89.5%）。 ・学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が82.6%（前年度実績88.2%）。 ・学校評価（保護者）③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が84.1%（前年度実績87.5%）。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が96.2%（前年度実績91.7%）。 ・学校評価（保護者）① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が89.9%（前年度実績92.6%）。 	<p>前年度アンケート項目を変更したため、その前の年度との実績比較ができない項目があったが、今年度はすべての項目において前年度実績と見比べることができた。どの項目も大きな数値の変動はなく、今年度も概ね肯定的評価をいただいていると判断でき、学校運営、教育活動に対し理解を得ていると評価する。</p> <p>レポートについては、毎月末のレポート支援日だけでなく、授業の空時間や放課後などの時間を使い生徒と一緒にレポートをする時間を意識して設けている。どこでつまづいたのか、どんなことが苦手かということと一緒にレポートをする中でそれぞれの教員が掴んで共有するようにしている。また、レポートを採点しながら生徒がよく間違ってしまう問題はなぜそのような間違いにつながったのかということを各教科担当が毎年丁寧に分析し、出題の仕方、ヒントや資料の作り方などを工夫し次年度のレポートを作り直すということを積み重ねてきた。そうすることで生徒の現状に見合ったレポートを作成できているのではないかと思っている。</p> <p>授業については、基本的にどの教科の授業も複数名の教員で担当することにしていて、毎回授業後にその複数の教員でその日の授業の振り返りをして、次の授業を考えるようにしている。そのことが「興味を持って参加しやすい」授業づくりにつながっていると考える。</p>

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥
「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤
「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が83.0%(前年度実績81.3%)。
- ・学校評価(保護者)④
「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が89.1%(前年度実績89.7%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦
「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧
「生徒の基本的な生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨
「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩
「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥
「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が93.9%(前年度実績93.7%)。
- ・学校評価(生徒)⑦
「清掃が行き届いている」の肯定的評価が90.0%(前年度実績87.5%)。
- ・学校評価(保護者)⑤
「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が93.5%(前年度実績95.6%)。
- ・学校評価(保護者)⑥
「清掃が行き届いている」の肯定的評価が92.8%(前年度実績83.1%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪
「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧
「生徒たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が86.2%(前年度実績86.8%)。
- ・学校評価(保護者)⑦
「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が95.7%(前年度実績97.1%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫
「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨
「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が95.4%(前年度実績97.3%)。
- ・学校評価(保護者)⑧
「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が95.6%(前年度実績97.8%)。

前年度の課題であった特別活動の充実については、学校評価(生徒)⑤の「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が、前年度より1.7%ではあるが増えた。一つひとつの特別活動の前に「どんな行事、どんな時間になればいいのか」ということを教員全体でじっくりと時間をかけて議論して臨んだことはこの評価につながっていると思われる。前年度から「特別活動の日」を設けて体育館を貸し切り、今まで屋外での活動ばかりであったものを室内で実施したところ生徒に好評であったため、今年度も引き続き行う。

一方、前年度と比較して評価が下がっている項目として「進路指導」が挙げられる。肯定的評価はほぼ同じ数値であるが、「よくわからない」の数値は3.3%増えた。その原因については、まず直近の卒業生に対しこのアンケートを実施していないということ、また新3年生に対しての実施時期が年度始めということも関係していると推察できる。また、「よくわからない」という回答は早い段階から進路について意識しているということの表れでもあると受け取れる。このことを教員側も意識してこれからの進路指導に当たっていく。

(1) 生徒一人ひとりを大切にされた教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。

(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。

(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。

・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。

・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。

(1)

- ・自己評価（教職員）⑬
「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。
- ・学校評価（生徒）⑩
「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が96.9%（前年度実績95.1%）。
- ・学校評価（生徒）⑪
「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が92.3%（前年度実績92.4%）。
- ・学校評価（生徒）⑫
「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が93%（前年度実績93%）。
- ・学校評価（保護者）⑨
「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が94.2%（前年度実績98.5%）。
- ・学校評価（保護者）⑩
「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が92.8%（前年度実績97.1%）。
- ・学校評価（保護者）⑪
「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が92%（前年度実績93.4%）。
- ・学校評価（保護者）⑫
「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が93.5%（前年度実績97.8%）。

(2)

- ・自己評価（教職員）⑭
「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。
- ・自己評価（教職員）⑮
「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。
- ・自己評価（教職員）⑯
「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。

(3)

- ・自己評価（教職員）⑰
「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。

学校評価（生徒）⑫の「この学校に入学してよかったと思う」については前年度と同じだった。しかしながら、まだ一定「よくわからない」や否定的評価の生徒や保護者も若干おり、今後も生徒一人ひとりに、そして保護者に対してもきめ細かい対応を心掛けていきたい。

「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導」については、生徒は前年度に比べると肯定的評価が増えたのに対し、保護者は逆の結果となった。これは生徒との「子ども理解」を深めるための取り組みや話し合いの時間を多くとり、生徒に対してできることを実践していこうというエネルギーの配分が大きくなりすぎて、これまで保護者一人ひとりに対して取れていた時間が削られることになったのかもしれないと反省する。提出書類についての連絡など、担任が保護者に連絡を入れる機会は年々増えてきているので、そういう機会をただの連絡に済ませないで、学校での生徒の様子をたくさん伝えたり、生徒や保護者の悩みなどを聞き出す機会としていけるよう意識する必要があるのではないかと考える。

